

「建設企業は本来業務で社会に貢献している」といういい方は正しいのでしょうか

● CNCP はあなたが参加し楽しく活動する場です ●

今月のひとこと

社会インフラ整備にまい進してきた建設企業で働いている皆さんが、その仕事に誇りを持ち、「本来業務そのものが社会貢献である」と発言すること自体は、決して間違っているわけではありません。しかし、自動車メーカーであれ食品加工メーカーであれ、社会生活と深く結びついた業務を行っているので、建設業が特別な使命を持った存在とは言い難いと思います。そしてどの産業も本来業務はうまくいって当たり前ですから、一步でも社会の評価を高めるために、様々な努力をしているわけです。この“うまくいって当たり前”に冷水を浴びせるのが事故、さらに深刻なのが反社会的な行為であり、下手すると命取りになります。リコールの遅れ、消費期限や品質の偽装、建設関連では談合などがあげられます。10年前に“談合決別”により不名誉な事件が影を潜めましたが、これらはいずれも“マイナス効果”を無くす努力であり、これからは建設企業においても他産業と同じく、“いかにして企業価値を高め社会の信用と信頼を高めていくか（プラス効果）”が最も重要な課題であると考えます。



このような課題に取り組むにはやはり議論が必要です。企業価値とは何か、社会貢献とは何か、言葉の定義ではなく、本来業務と結びつけた議論のために企業横断的に人材が集まってワーキングを重ねていく、“シビルと社会の接点”を常に意識しているCNCPの基本的なテーマでもあります

(代表理事 山本卓朗)

Vol.41 コンテンツ

巻頭言	シニアゴルフ・ボランティア活動って何？	和田 恵	2
コラム	うなぎを食べ続けるには土木の協力が必要	小重 忠司	3
トピックス	第1回インフラメンテナンス大賞決まる	皆川 勝 有岡 正樹	4
明治150年企画	土木技術の危機 その一 多発する自然災害	三上 靖彦	6
会員からの投稿	まちづくりと中間支援	田中 滋夫	8
サポーターからの投稿	川と橋を訪ねて1万キロ	山中 鷹志	9
部門活動紹介	「CNCP アワード2017」の受賞者決定！	三上 靖彦	10
会員紹介	NPO 法人 いきいき35	皆本 義典	11
事務局通信			12